

社会技術特論 (Topics of Social Technology)		2年・後期・2単位・必修 3専攻共通 担当 藤田 直幸, 谷口 幸典,
	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 B-2 (80%), D-2 (20%)	〔JABEE 基準〕 d-1, d-2d
〔講義の目的〕 本講義の目的は以下の通りである。 1) 地方創生とは何か、また地方創生に対して技術者が果たす役割とその重要性について理解する。 2) 奈良県（対象地域：下市町）が抱える地域創生上の問題に対する解決策の作成を通じて、技術者が社会の関わりの中で身につけるべき、課題発見、課題分析、解決策考案、解決策評価という一連の流れを理解し、それを実践する。 1) 地方創生とは何か、またその役割と必要性について理解する。 2) 地域社会が抱える問題として、奈良県が抱える問題を事例を通して理解する。 3) 奈良県の問題を題材としてワークショップ形式を活用した講義を通して、技術者が備えるべき汎用能力として、ファシリテーション能力、発想能力、問題解決能力の育成を図る。		
〔講義の概要〕 「地域創生に対して技術者として何が出来るか？」を課題としたグループワークを行う。現地調査（学外）を通じ地域の問題点を洗い出したり、「発想法」や「特許と地域創生」に関する外部講師の講義を加え、多面的な方法で、問題解決能力を養う。		
〔履修上の留意点〕 本教科では、実際のモノづくりは行わないが、奈良県の地域創生についてのアイデアを企画することを目的としている。問題解決を異なる専門分野の学生と共同で行うので、ディスカッションなどには、積極的に取り組んでほしい。		
〔到達目標〕 1. 地方創生とはなにかと、その重要性について説明ができる。 2. テーマに対して、現状を把握し、あるべき姿（目標）とのギャップから問題を明確にし、問題に対する調査・分析結果から課題を導き出すという課題発見の一連のプロセスを理解している。 3. 課題を解決する具体的な手段を自身の専門分野と関連付けて提案することができる。		
〔自己学習〕 多様な分野の内容を含む講義であるため、各自学習内容をより深めること。		
〔評価方法〕 中間発表会の内容、最終発表会の内容、期末試験（論述形式）		
〔教科書〕 教科書は使用しない。適宜プリント資料を配付する。 〔補助教材・参考書〕		
〔関連科目〕 専門科目全般。		

週数	講義項目	講義内容	自己 評価*
1 週	本講義の概要説明	ガイダンス、チーム分け	
2 週	調査	奈良県下市町について、インターネット等から情報収集して、マインドマップを活用してまとめを行う	
3 週	問題分析と課題設定 1	現地調査から見えてきた問題点をチーム内で議論し、問題分析と課題設定を行う。	
4 週	課題解決のための 発想法演習	外部講師を招いて、発想法について演習を通じて学ぶ。	
5 週	問題分析と課題設定 2	現地調査から見えてきた問題点をチーム内で議論し、問題分析と課題設定を行う。	
6 週	問題解決演習 1	設定した課題に対し、チーム内で議論し、解決策を検討する。	
7 週	中間発表会準備	中間発表会の準備を行う。	
8 週	中間発表会	事前調査や現地調査を通して得た情報から、地域の問題に対する分析結果と、問題の原因、解決すべき課題、解決策案について発表する。	
9 週	問題解決演習 2	中間発表でのコメントも加味し、設定した課題に対し、チーム内で議論し、具体的な解決策を導き出す。	
10 週	問題解決演習 3	設定した課題に対し、チーム内で議論し、具体的な解決策を導き出す。	
11 週	問題解決演習 4 最終提案発表会準備 1	設定した課題に対し、チーム内で議論し、具体的な解決策を導き出すとともに、最終発表会の準備を行う。	
12 週	最終提案発表会準備 2	最終発表会の準備を行う。	
13 週	最終提案発表会	中間発表時のコメントも加味し、設定した課題に対する解決策とその根拠を発表する。	
14 週	まとめ	個人、チームによる授業の振り返りとまとめ	
15 週	期末試験	期末試験	

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)